

スクール・ミッション 及び スクール・ポリシー（三つの方針）

兵庫県が定めるスクール・ミッションと本校が定めるスクール・ポリシーにより、本校が育成を目指す資質・能力を明確化するとともに、教育活動等を精選・重点化し、学びたいことが学べる学校づくりを推進します。

1 スクール・ミッション

「自主 協調 創造」の理念のもと、自立した一人の人間としてよりよく生きていくための、探究力を核とする総合的な力を備え、持続可能な社会づくりの担い手として、国際社会や地域社会に積極的に参画し、貢献できる人材を育成する。

2 スクール・ポリシー（三つの方針）

（1）育成をめざす資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）

普通科	自然科学科
① 自らの夢や自己実現に向けて、基礎・基本の定着した「 確かな学力 」および主体的・創造的に「 生きる力 」を身につけた生徒を育成する。	① 高度な理数系知識と自発的な研究態度、世界的視野に立つ多様な価値観を身につけた 科学技術人材 を育成する。
共 通	
② 学び続けるための基本的スキルとして「 読解力 」、「 論理的思考力 」、「 教科横断的な視野 」を育成する。	
③ 探究的な教育活動をとおして「 批判的思考力 」、「 協働的思考力 」、「 創造的思考力 」を育成する。	
④ Society5.0 時代をよりよく生きるための「 探究力 」、「 情報発信力 」、「 対話する力 」を育成する。	
⑤ SDG s の目標達成に向けて、グローバル（グローバル×ローカル）な発想で主体的・協働的に課題解決に立ち向かう力を育成する。	

（2）教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

普通科	自然科学科
① 各教科・科目においてSDG s の観点を取り入れ、地球市民性を育む学びを展開する。	① 自然科学分野の様々な事象に関わり、数学的・理科的に考える資質・能力を育成する理数専門科目を展開する。
② スーパーサイエンスハイスクール事業を軸とした課題研究やSTEAM 教育等、教科横断的な学習を推進する。	② スーパーサイエンスハイスクール事業を軸とした科学技術人材の育成に資する課題研究を推進する。
③ 行政や専門機関と連携し、地域の活性化や魅力再発見に向けた探究活動に取り組む。	③ 大学・企業・専門家と連携し、実践的STEAM 教育やSDG s 達成をめざす教科横断的な学習を推進する。
④ 多様な進路に対応した講演会・実地体験等、進路ガイダンス機能を充実させる。	④ ALT による実験指導や海外学生との共同研究等、自然科学分野における英語運用能力を高める取り組みを展開する。
共 通	
⑤ ネットワークと ICT 機器を活用した能動的・協働的な授業を展開する。	

(3) 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

普通科	自然科学科
① 探究的な学習に関心を持ち、課題の創造的な解決に粘り強く取り組むことができる生徒を募集する。	① 理科・数学に興味を持ち、様々な先進的理数教育や体験的・問題解決的な学習に粘り強く取り組むことができる生徒を募集する。
共 通	
② 多様性を受容し、仲間ともに努力することができる生徒を募集する。 ③ 高い向上心を持ち、夢の実現に向けて本校で幅広い教養を身につけたい生徒を募集する。	

学校経営の重点等

1 学校経営の重点

(1) 学校教育目標

創立 52 年の活力ある開拓精神を受け継ぎ、校訓（自主・協調・創造）の具現である「探究力」を核として、自立した一人の人間としてよりよく生きていくための総合的な力を備え、将来、持続可能な社会づくりの担い手として、国際社会や地域社会に積極的に参画し、貢献できる人材を育成する。

ア 豊かな人間性の育成

時代の要請や社会常識の変化に対応し、主体的に社会のルールや公正さを重んじる態度や多様性を尊重する態度等の育成を図るとともに、命と人権を大切にす態度、他者を思いやる心や自然を愛する心など、豊かな人間性を育成する。

イ 学びに向かう力の育成

体験的・問題解決的な探究的教育活動をとおして、生徒一人一人がこれからの社会で個性や創造性を発揮することができるよう、自ら学ぼうとする意欲や関心を喚起する教育を推進する。

ウ 確かな学力の育成

基礎・基本を確実に定着させるとともに、高い目標の達成に必要な確かな学力を身に付けさせる。

エ 開かれた学校づくりの推進

地域と連携した教育活動による地域貢献を推進するとともに、保護者や地域の人々に対して、教育活動の特色・魅力に関する情報発信の充実を図る。

(2) 重点目標

ア 豊かな人間性の育成

(ア) 時代の要請や社会常識の変化等を踏まえた校則への見直し・策定に取り組み、主体的に社会のルールや公正さを重んじる態度や多様性を尊重する態度等の育成を図る。

(イ) 学校行事やホームルーム活動を通して、命と人権を大切にす態度、他者を思いやる心や自然を愛する心など、豊かな人間性を育成する。

イ 学びに向かう力の育成

(ア) 大学教員・社会人等による様々な講演や、大学・企業・海外留学生等との交流の機会を効果的に設定し、幅広い教養の獲得と国際社会や地域社会に積極的に参画・貢献しようとする意欲の向上を図る。

(イ) SSH 事業の手法を全校に波及させ、課題研究を核とする体験的・問題解決的な教育活動をとおして、生徒一人一人がこれからの社会で個性や創造性を発揮することができるよう、自ら学ぼうとする意欲や関心を喚起する教育を推進する。

ウ 確かな学力の育成

(ア) 学習習慣を確立させ、基礎・基本を確実に定着させる。

(イ) 個に応じたきめ細かい学習指導の充実により、自身の進路実現に向けて主体的に学習に取り組む態度を育成する。

(ウ) 研究授業・公開授業や教員研修を実施し、教員の専門性と実践的指導力の向上を図る。

エ 開かれた学校づくりの推進

(ア) 学校HPの充実、マスコミへの広報、連絡アプリを活用した学年便り等の文書配布等による情報発信をとおして保護者や同窓生、地域住民等との連携・信頼に務める。

(イ) 学校説明会やオープン・ハイスクールの充実、学校行事の公開、地域小中学校と連携した教育活動の発展により、本校の魅力発信を推進する。

2 教科指導及び生徒指導（特別教育活動を含む）の重点

(1) 教科指導

- ア 学習習慣の確立による基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着及び個に応じたきめ細やかな学習指導の徹底により、高い進路目標を達成するための学力を身につけさせる。
- イ 課題解決的・教科横断的な教育活動を全校展開し、思考力・判断力・表現力の育成及び主体的・協働的に発展・応用に取り組もうとする学習態度を養う。
- (ア) 各教科・科目における SDGs^{*1}の観点を取り入れた探究的な授業展開及び SDGs の観点からの課題研究の充実に取り組み、地球市民性を育む学びを展開する。
- (イ) スーパーサイエンスハイスクール (SSH) の使命である「国際的に活躍できる科学技術系人材」を育成するため、大学・企業や海外の学生等と連携して、自然科学分野に関する課題研究の質的向上を図る。
- (ウ) 課題研究の質的向上に向けた教員研修を実施し、生徒の主体的な研究活動をサポートする。
- ウ Society5.0^{*2} など新しい時代に必要となる情報活用能力の育成及び探究的な学びをより主体的・協働的にする観点から、BYOD で導入したタブレット端末を含めた ICT 機器の積極的な活用に全校的に取り組む。
- エ 研究授業・公開授業を実施し、教員の専門性と実践的指導力の向上を図るとともに、「観点別評価」の改善と充実により学習評価の精度を高めることで、確かな学力の育成を推進する。

※1 SDGs (sustainable development goals) : 2015年9月の国連サミットにおいて全会一致で採択された2030年までの国際開発目標。先進国を含む国際社会全体の開発目標として、2030年を期限とする包括的な17の目標設定。「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に、統合的に取り組むものとなっている。(国際連合広報センターHPから)

※2 Society5.0 : サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会。狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された。(内閣府HPから)

(2) 生徒指導

ア 生活指導

- (ア) 人間的なふれあいに基づく、心のこもった生徒指導をめざし、生徒支援部の指導係を中心に全教職員の共通理解を基盤とした生徒指導を行う。
- (イ) 「兵庫県立明石北高等学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止・早期発見に努めるとともに、家庭や地域、関係機関との連携を図りながら、組織的対応を迅速に行う。
- (ウ) ホームルーム・生徒会活動・学校行事等をとおして、個々の生徒の自主的・主体的な問題解決姿勢を育成するとともに、日常生活でも常に自己反省と改善を心がける習慣を身につけさせる。
- (エ) 時代の要請や社会常識の変化等を踏まえ、生徒会・PTA・教職員が連携して校則の検証・見直し・策定に取り組む。
- (オ) 開かれた学校づくりの一側面である校外関係機関との連携を通じ、事故ならびに非行の防止に努めるとともに、事案発生時には計画的・組織的・継続的な指導・援助を行う。

イ 教育相談

- (ア) キャンパスカウンセリングを定期的実施し(年間27回)、生徒の心のケア及び適応が困難な生徒や支援を必要とする生徒の早期発見に努め、一人一人が抱える課題に個別に対応した適切な支援に繋げる。
- (イ) ホームルーム担任・学年団を中心に個々の生徒の特性や心身の不調等の早期把握に努め、生徒支援部、スクールカウンセラー、特別支援教育コーディネーター等と協働して、適応が困難な生徒や支援を必要とする生徒への適切な支援に繋げる。

(ウ) カウンセリング・面談等によるアセスメントに基づき、生徒指導部・保健部を中心とする組織的かつ迅速な対応に努める。必要に応じて教育委員会・専門機関との迅速な連携を図る。

(3) 特別活動・課外活動

ア 学校行事

学校行事を精選し、生徒が主体的・積極的に参加し、集団生活の様々な経験をとおして目的意識や企画力・責任感や協調性を育み、愛校心を喚起し、望ましい校風の樹立に努める。

イ 生徒会活動

校風樹立の一翼を担う学校教育活動の一環として、自主的な態度と運営能力の育成・伸長を図る。

ウ ホームルーム活動

指導目標を明確にし、ホームルーム集団はもとより生徒個々の内面的な問題の解決を図るとともに、ホームルームが人間的なふれあいの場となり、共に成長していける場となるようにする。

エ 部活動

健やかな身体と豊かな情操を持った生徒を育むため、積極的な参加を奨励する。指導にあたっては、「いきいき運動部活動（4訂版）」及び「文化部活動の在り方に関する方針」を踏まえ、自主的、自発的で計画的な活動をとおして個性を伸長し、好ましい人間関係を育てるとともに、効果的・効率的な運営により勉学との両立を実現する。

(4) 進路指導

ア 大学教員・社会人・卒業生等による様々な講演等の機会を生かして、生徒一人一人の進路意識の高揚を図る。

イ ホームルーム活動や個人面談等を活用し、能力・適性・興味・関心等の自己理解を深めさせる。

ウ 入試に関する情報の収集や入試データの分析を幅広く的確に行う。また、生徒が主体的に進路を選択し決定できるよう、必要な情報を時期に応じて提供する。

(5) 人権教育

人権尊重の精神に基づき、現代社会で生じている様々な人権課題について正しく認識し、生命の尊厳を基盤に、自他に対する肯定的な態度と共生社会の実現に主体的に取り組む実践力を育成する。

ア 人権・道徳教育推進委員会を中心に、職員全体の研修を深め、指導体制の強化・充実に努める。

イ 生徒の発達段階や関心に応じた人権教育 LHR を計画的に実施し、差別を許さない生徒を育てる。

ウ 同和問題が人権問題の重要な柱であるにとらえつつ、人権に関わる今日的な課題に関心を持ち、解決に向けて努める人材を育成する。

エ 障害のある生徒、外国籍の生徒など偏見や差別の対象となりやすい生徒の進路については、全職員が一丸となつて的確・迅速に対応する。

オ インターネットによる人権侵害、性的マイノリティとされる人々に対する偏見や差別等、社会の変化に伴って複雑・多様化している人権課題について現状を正しく理解し、人権意識とその実践力を育成する。

カ 国際的視野に立って自らの考えを持ち、国際社会の一員として共に生きる心を涵養する。

3 健康・安全に関する指導の重点

全教職員が生徒の健康と安全に対する理解と認識を深めるとともに、心身の健康に関心を持ち、生涯にわたって健康で安全な生活を主体的に送ることができる実践力を育む。

(1) 組織的かつ計画的に健康診断および事後措置を実施し、適切な保健管理・保健教育につなげる。

- (2) 保健委員会を通して自主的な保健活動を行うとともに、生徒自らが健康を保持増進する能力の育成に努める。
- (3) 薬物乱用防止教室を開催し、心身の健康と健全な生活態度や生活習慣の確立を図るとともに薬物根絶意識を醸成する。
- (4) 毎日の健康観察を通して生徒の主体的な行動変容を促し、適切な感染症対策を図る。
- (5) 校内諸施設の安全点検、通学時の安全指導等を通じ、校内外における活動中ならびに登下校時の危険防止や事故の予防に万全を期すようにする。
- (6) 自然災害等の発生に備え生徒の安全を確保するため、教職員の危機管理能力を向上させる取組を推進する。
- (7) 高校生等防災ジュニアリーダー育成事業や令和5年度防災教育チャレンジプランの取組も活用し、大震災の教訓を生かし、生徒が主体的に判断して行動する力、助け合いや共生の心を大切に防災教育を推進する。

4 校務分掌

別表のとおり

5 本年度の研究テーマ

- (1) 「課題研究」の3年間を見通した年間計画を構築するとともに、探究活動の質的向上に向けて、指導体制の在り方や生徒の主体性・創造性を引き出す指導法等について、専門家等による研修及び先進校視察等を推進する。

【探究推進部、各教科、各学年】

- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現及び探究的な学びをより能動的・協働的にする観点から、BYOD 端末を含めた ICT 機器を、すべての教員が個別学習や協働学習等の様々な場面に応じて効果的に活用できるよう、研究授業・公開授業の実施及び授業法の研究と開発を行う。

【BYOD 活用推進委員会、各教科】

- (3) 令和5年度防災教育チャレンジプラン特別賞の実績を活かし、2年生地理総合の学習や防災ジュニアリーダー育成事業を核として、地域の自然環境・社会環境をふまえた防災力と、持続可能な地域づくりに参画するための力を養う防災教育体制を推進する。

【地歴公民科、総務部】

- (4) 大学入試制度(学校推薦型・総合型選抜)において、本校での学びの成果(SSH、課題研究等)を生かした進路指導の在り方について、進路指導部・探究推進部が連携して研究し、生徒の進路選択に資する形を構築する。

【進路指導部、探究推進部】

- (5) 「生徒の資質・能力を正しく評価する」という観点及び「教員の教科指導力向上に資する」という観点から、令和4年度に導入した「観点別評価」の検証及び改善に向けた研究を行う。

【教務部、進路指導部、各教科】

- (6) SSH 第Ⅲ期の研究開発課題である科学技術人材育成プランの成果の改善に取り組むとともに、第Ⅳ期申請に向けて、新たな研究開発課題を掲げ、先行して取り組んでいく。

【探究推進部、各教科、各学年】

6 高校生ふるさと貢献・活性化事業

(1) ふるさと貢献活動

ア 地域クリーンアップ作戦

生徒会と有志が中心となり、年2回、通学路清掃をPTA・地域の自治会等の方々と協力し実施する。

イ 花づくりふれあい活動

1、2年生全員が、年2回、PTAと協力してプランターに植えた花を地域の保育所・幼稚園・養護学校などに届ける。本活動を通して、環境の美化と温かい思いやりの心を養う。

ウ めいほく親子サイエンス教室

地域連携の一環として、小学生（とその保護者）と理科実験を通じて触れ合うことにより、地域の子どもたちの理科（科学）に対する興味・関心の高揚を図る。

（２）ふるさと活性化活動（自治体や企業との協働による環境保全及び地域活性化）

自然科学科1年理数探究基礎・2年理数探究、普通科1年理数探究基礎・2年総合的な探究の時間（文類型）理数探究（理類型）等において、ふるさとの歴史や産業、環境等、地域活性化に資する研究テーマを設定し、明石市や関係機関・事業所とも協働して調査・研究・検証を進め、成果として地域の活性化や魅力再発見に向けた提案を行う探究活動に取り組む。

7 高校生就業体験事業 ～インターンシップ推進事業～

（１）事業所でのインターンシップの実施

就職希望者による県庁インターンシップや、看護医療系大学進学希望者の一日体験及び保育士希望者の保育所インターンシップを実施し、職業適性を考えさせる。

（２）進路ガイダンスの充実

進路講演会や学問分野別説明会等の進路ガイダンス機能を充実させることにより、個々の進路を見つめ将来設計を考えさせる。

（３）大学研究室・事業所等での実地研修

大学の研究室や先端技術に特化した事業所、研究施設の見学や実体験を行うことで、専門分野における知識・技能の進化と学習意欲の喚起を図る。

8 高校生キャリアノート及びキャリアパスポートの活用

中学校での「キャリアパスポート」を引き継ぎ、LHR や個人面談等における高校生キャリアノート及びキャリアパスポートの活用を通じて、自らの変容や成長を自己評価し、将来の在り方生き方を考えるとともに、社会とのつながりや社会における自らの役割を考え、志をもって自らの未来を切り拓く力を身につけさせる。

（１）生徒のキャリア形成を支援するための活用

生徒が自己の活動の記録を蓄積しながら、自己の将来の在り方生き方について考え、目標を持って主体的に進路選択ができるようにするとともに、自己のキャリア形成に生かそうとする態度を養う。

（２）インターンシップ実施での活用

インターンシップ実施にあたり、生徒が職業や働くことの意味を考え理解するとともに、社会人としてのマナーを身につけるための手立てとする。

9 県立高校魅力アップ推進事業

大学等の研究機関、企業等との連携による、先端技術を活用した探究活動を軸とする教育課程の展開

大学教授や著名人による、人文社会及び自然科学分野の講演や、課題研究等における専門的見地からの指導を、SSH事業を柱とした自然科学分野（理数教育）の研究推進と効果的に連携させ、全校生の探究的な教育活動に対する意欲の向上を図る。また、幅広い教養や見識の獲得をとおして、自己の在り方・生き方を考えることができ、将来、国際社会や地域社会に積極的に参画・貢献しようとする意欲と態度を醸成する。

1 校務分掌

学年	主任	副主任	学年付	学級担任							
				1	2	3	4	5	6	7	8
1 学年	木村	太田		亀川	佐藤	薄井	綿口	片井	福嶋	松谷	赤木
2 学年	谷認	松原		今井	板倉	生木	楠本	日野	上村	中田	藤本
3 学年	貝田	神尾	梶田	原田	松岡	西村	竹添	奥田	山本	樋上	峯

専門部	部長	副部長	専任				係（1年）		係（2年）		係（3年）		
総務部	井上	小林智	富田	今村	竹下	浜辺		佐藤		上村		梶田	
			奨学金		小林智			佐藤		上村		梶田	
教務部	宮田	津田将	福田	東原				綿口	松谷	生木	中田	竹添	原田
			ICT推進		福田			松谷		中田		竹添	
			観点別評価		津田将			綿口		生木		原田	
探究推進部	三嶋	小林卓	戸塚	植田	北方	櫻井(実)		赤木		藤本		峯	
		推進リーダー	理数探究		小林卓	植田		赤木	松谷	藤本	楠本	峯	奥田
			総合探究		三嶋	北方				生木	谷認	樋上	原田
			教員研修		北方	戸塚		赤木		松原		神尾	
			データサイエンス		植田	戸塚		薄井	綿口	中田	松原	竹添	原田
			国際交流推進		三嶋	小林卓		福嶋		板倉		樋上	
			高大連携・接続		戸塚	久保※		薄井		日野		山本	
進路指導部	久保	林	渡邊	宗重				太田	薄井	松原	日野	山本	神尾
		人権及び道徳教育推進教師			林			佐藤	太田	松原	上村	梶田	神尾
生徒支援部	角野※	池下	津乗	津田和	池田	中原	小林論	片井	福嶋	今井	楠本	松岡	奥田
		保健主任			中原			保健 亀川		保健 板倉		保健 西村	
		学年：コーディネーター							コーディネーター 片井		コーディネーター 板倉		コーディネーター 貝田

SSH事務局	第IV期申請統括	三嶋	事務局長	小林卓	渉外支援	戸塚	経理事務	萩原
図書主任	今村 (司書教諭) 上村・樋上							

2 各種委員会

担当	委員会	構 成 (◎委員長 ○副委員長)											
1	校務運営委員会 (兼) 学校評価委員会 学校行事検討委員会 学校説明会・オープンハイスクール委員会	◎校長	○教頭	事務長									
			井上	宮田	三嶋	小林卓	久保	角野	木村	谷総	貝田		
2	学校評議員会	校務運営委員会の委員			学校評議員 (6名)								
3	衛生委員会 (兼) 働き方改善推進委員会	◎校長	○教頭	事務長	学校医	貝田	三嶋	井上	峯	板倉			
4	高校教育課事業推進委員会(ふるさと貢献・活性化、魅力アップ、就業体験)	◎教頭	事務長	○井上	宮田	三嶋	角野	久保	小林卓				
			必要に応じ事業内容に関係の深い専門部専任・当該学年係等									PTA	
5	防災教育実践委員会	◎教頭	事務長	○井上	○榎田	北方	東原	亀川	上村				
6	図書選定委員会	◎教頭	○今村	木村	生木	渡邊	津田将	今井	小林智	東原	日野	富田	
			樋上	上村									
7	購買運営委員会	教頭	◎事務長	○小林智	池下	今井	東原	佐藤	松原	榎田	その他関係職員		
8	BYOD活用推進委員会	教頭	◎富田	○福田	櫻井	松谷	中田	竹添	山本	佐藤	津田将	今井	小林智
			東原	神尾									
9	教育課程委員会	教頭	◎宮田	○小林卓	津田将	久保	三嶋	太田	松原	神尾			
			木村	生木	渡邊	津田将	今井	小林智	東原	日野	富田		
10	留学審査委員会	教育課程委員会の委員											
11	観点別評価検討委員会	教頭	◎津田将	○宮田	綿口	生木	原田						
12	教科用図書選定委員会	教頭	◎宮田	○小林卓	東原	木村	生木	渡邊	津田将	今井	小林智	日野	富田
							PTA会長						
13	食に関する指導推進委員会	◎教頭	○東原	木村	生木	渡邊	津田将	今井	小林智	東原	日野	富田	
			中原	綿口	板倉	貝田							
14	授業改善プロジェクト (兼) ICT活用推進	教頭	◎津田将	○富田	植田	小林智	松谷	中田	竹添	山本	佐藤	今井	東原
			神尾										
15	自然科学科委員会	校長	教頭	◎小林卓	○宮田	三嶋	井上	久保	木村	谷総	貝田		
			赤木	藤本	峯				必要に応じ教科主任				
16	SSH事業推進委員会 (兼) 第4期申請委員会	◎校長	○教頭	○小林卓	三嶋	赤木	藤本	峯					
17	国際交流事業推進委員会	◎校長	○教頭	事務長	○三嶋	宮田	小林卓	日野	木村	谷総	貝田		
			同窓会長	PTA会長									
18	国際交流事業実行委員会	◎教頭	事務長	○三嶋	小林卓	太田	松原	神尾	戸塚	福嶋	板倉	樋上	
19	進路指導委員会	教頭	◎久保	○戸塚	太田	松原	神尾	薄井	日野	山本	林	渡邊	宗重
20	人権・道徳教育推進委員会	◎教頭	○林	小林智	津田将	池下	太田	松原	神尾	佐藤	上村	榎田	
21	生活指導委員会	校長	◎教頭	○角野	池下	片井	今井	松岡			当該学年主任・学級担任		
22	いじめ対応チーム	校長	◎教頭	○角野	木村	谷総	貝田	林	福嶋	楠本	奥田		
						カウンセラー	その他必要とする者						
23	生徒会行事実行委員会	教頭	事務長	◎角野	○池下								
			井上	宮田	三嶋	小林卓	久保	角野	木村	谷総	貝田		
24	課外活動運営委員会	◎教頭	事務長	○角野									
25	特別支援教育推進委員会	◎教頭	事務長	○小林智	中原	池下	津田将	林	片井	板倉	貝田		カウンセラー
			当該学級担任 (・部活動顧問)										
26	学校保健委員会	校長	教頭	事務長	◎角野	○中原	小林智	木村	谷総	貝田	亀川	板倉	西村
			今井	PTA会長・副会長・保健体育委員長					学校産業医・学校医・学校歯科医・学校薬剤師				